

新元旦

今年の抱負

有言実行



2016年の多久市を振り返って

昨年、多久市にとって一番のニュースは旧ゆうらくが再スタートに向け動き出したことではないかと思えます。旧ゆうらくの跡地は、小城市と共同で、ごみ処理を行うクリーンセンター建設のため多久市が購入しました。地元からクリーンセンターだけでなく、賑わいを取り戻すための温泉保養宿泊施設も造つたらどうかという提案をいただき、行政が中心となって、地方創生という国が掲げた政策のもと進めてきました。この施設については、2017年内にはオープンする予定です。市議会としても、雇用の創出や、多久市の活性化の観点から、行政と一体となって進めていきたいと思えます。

多久市民に伝えたい 議長の思う多久の魅力とは？

多久市は周囲を山に囲まれ、自然豊かで住みやすいまちだと思います。そんな田舎の魅力を少しでも都会の人たちに伝えていきたいと考えています。定住対策も進めていますので、これまで都会で一生懸命仕事をしてこられた団塊の世代のみなさんが、多久にUターンやIターンをされ、のんびりできることも魅力の一つだと思います。また、農業体験ができることや、ゴルフ場などの施設が多いこともあげられます。田舎は「住めば都」

また、中央公園東住宅団地の造成が行われ、28区画中、既に24区画が成約となりました。約半数は市外者が購入され、この内2世帯が県外の方ということでも、人口減少が進む中で、多久市の活性化や定住促進に繋がったのではないかと考えています。

まちづくりでは平成26年にオープンした多久市まちづくり交流センター「あいばれつと」が、多久市のまちづくりの拠点として賑わいを見せています。多久まつりの会場として多くのみなさんが集うなど、駅前周辺の賑わいが、多久市の更なる活性化や県内外の企業の進出、定住に繋がればと期待しています。

議長が考える 2017年の多久市とは？

といえますので、そういうことを市外に向けても発信していきます。

旧ゆうらくも再スタートしますので、多久市にとって活性化に繋がると思えます。我々団塊の世代では、地元で同窓会をしたいという思いがあるのですが、これまででは会場がないという状況でした。旧ゆうらくの再スタートで同窓会の開催をはじめとし、多くの人が多久に戻って来られたり、多久を思い起こしていただくきっかけ、また交流の場となつて欲しいと思っています。

また、多久市では高校生までの医療の無償化をはじめ、子育てをするには最適な場所だと思えますので、2017年は雇用の創出にさらに力を入れていきます。



今年の抱負

公職選挙法の改正により、選挙権年齢が20歳から18歳に引き下げられました。これからの日本・多久を担う子どもたちにもっと議会について知ってもらえるよう「子ども議会」を実施したいと思っています。議会改革を進めて、若い人たちと一緒に、より良い多久市となるよう考え、議会運営を行っていきます。

多久市議会議長
山本茂雄

